砂漠の遺跡踏査Al Madam 2011

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/36243

砂漠の遺跡踏査 AL MADAM 2011

Settlement sites along the trade route in the desert, Sharjah Emirate

佐々木達夫 , 佐々木花江 , Eisa Abbas Hussien Yusef

Al Madam Project

アラビア半島の東北端、アラブ首長国連邦の内陸には、Al Hajar Mountain 西側山裾と砂漠周辺に沿う内陸を南北に通る基幹道路がある。山裾から水が得られる可能性が高い平原地域を通る道である。

Al Hajar 山脈はムサンダム半島からアラブ首長国連邦、オマーンへと南北に連なり、山脈西側に広がる砂漠との境に農園が点在している。オマーン湾の港町 Dibba と Fujairah から、アラビア湾の港町 Ras Al-Khaimah, Sharjah, Dubai から通じる内陸の東西方向の道に Dhaid がある。Dhaid から Al Hajar 山脈と内陸砂漠の間を南に下ると Al Ain に至り、その途中に Mleiha, Al Madam, Al Hayir などの農地が砂漠に連続的に点在する。今回の Al Madam プロジェクトの調査対象地 Al Madam は、Dhaid の次の十字路であり、アラビア湾とオマーン湾に通じる東西ルートの拠点である。

Al Ain も Dhaid と並ぶ交通の要所で、西はアラビア湾の AbuDhabi, 東はオマーン湾の Sohar を結ぶ横断道がある十字路である。当該南北道路と東西道路が接する町は Dhaid, Al Madam, Al Ain となる。

Al Ain からさらに南に進むとオマーンの Ibri, Bahla, Nizwa に至る、山脈西側の砂漠周辺の基本的な道である。Nizwa でオマーン湾の Masqat に至る道と、さらに南のアラビア海の Salalah に至る砂漠の道に分れる。

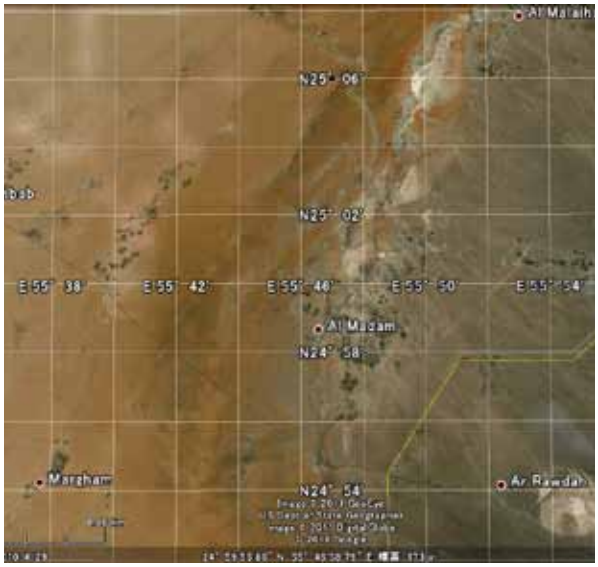


Fig. 1　Map of U.A.E. and location of Al Madam.

こうしたルートは、山脈と砂漠の境界を通る古くからの基本的な交通路である。

Dhaid から Mleiha を通り Rifadah、Al Madam を通る道に沿う付近には低い小さな赤色砂丘が連続して並んでいる。道路整備のために地表面が動かされているが、それでも他の地域と比べ土木開発が遅れている地域であるため、小さな低い砂丘と砂丘の間に、やや黒ずんだ砂と小石が混じる窪み状の狭い平坦地があり、そこに土器片が散らばり、居住跡の存在が推定できる。





本研究は山脈裾と砂漠平原の境目地帯を通る内陸の南北ルートと、アラビア湾とオマーン湾を結ぶ東西ルートの交点を中心に、砂漠の交易ルートと居住地、そこを運ばれた物に関する調査の初年度報告である。シャルジャ首長国領内の Al Madam 付近を中心に調査する。

Trade route between Mountain and desert

ムサンダム半島の両側に古くから栄えた港町がある。アラビア湾側にはハレイラ島、ジュルファール、ラッセルカイマなどの港町、さらにシャルジャ、ドバイなどの港町、オマーン湾側には Dibba や Khorfakkan、Fujairah などがある。こうした海岸の町から内陸に入る道はいずれも Dhaid を通り、さらにハジャール山脈と砂漠の境目を南下している。そのルートは、以前から村と村を結ぶ道、あるいは海岸から内陸に、内陸から海岸に物を運ぶ交易路であったと言われる。現在この付近は 1980 年代に車の道として舗装された道路が完成し、東西方向を走る道が重要な交通ルートとして利用されている。南北を結ぶルートの舗装道路は少し遅れて整備されているが、古くからのルートも同じような地域を通っていたと推定される。しかし、アブダビ・アライン間を結ぶ砂漠ルートは以前から有名であったが、現在直線で結ぶルートを外れた地域から多くの遺跡が砂漠内で発見されることは、以前のルートが現在のルートと必ずしも重なるわけではない。

ラクダ等を利用した交通の時代のルートを示す考古学的証拠の一つとして、人々の居住した痕跡をマッピングし､その年代を土器などから推定する作業がある。砂漠のなかで現在も居住跡地を示すのは、土器片の散布地や調理跡の小石片の集まりであり、こうした痕跡が Al Madam 付近では今も地表に残る。小石の集まりはパン焼きや肉調理の跡であろう。土器片は水を入れる瓶、火にかける鍋 cooking pot が多いようで、その他に褐釉陶器瓶や青彩陶器鉢、スグラヒィアト碗、中国青磁碗鉢皿など、海岸の遺跡で発見される種類の土器や陶磁器が表採できる。ガラスバングル、ガラスビーズなどの装飾品、貝、動物骨などの食糧残滓も見られる。遺跡の存在を確認した段階で採集した陶磁器を 5 片示すが、13 世紀から 20 世紀の遺物が簡単に地表面で採取できる。イエメン黄釉黒彩陶器鉢、中国竜泉



Fig. 2 Landscape of Al Madam area and some collected ceramics. Yemeni yellow glazed ware with black decoration. Chinese green ware small dish of the 13th century.



Fig. 3　Al Madam roundabout and researched area. Left side, U.A.E. Right side, Oman.







Fig. 4　Point 1 of Al Madam and collected ceramics.







Fig. 5　Point 2 of Al Madam and collected ceramics.



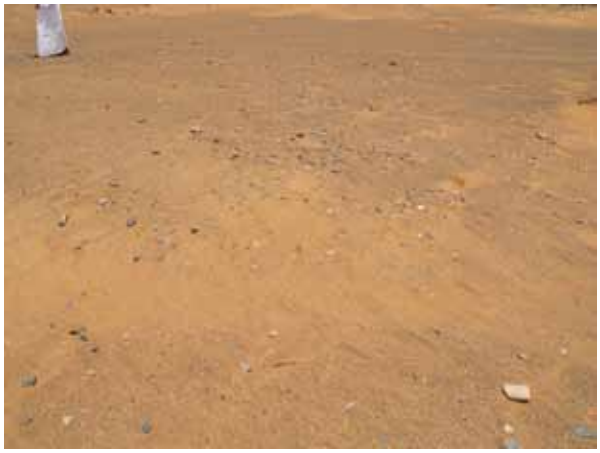






Fig. 6　Point 3 of Al Madam and collected ceramics.







Fig. 7　Point 4 of Al Madam and collected ceramics.

窯青磁小鉢 13 世紀を含んでいる。ただし、Julfar や Khorfakkan の発掘で出土した 14 世紀から 16 世紀初の陶磁器と類似するものは、中国青磁２片を除き、イスラーム陶器については未だ採集されていない。この時期のルートがこの地域を通らなかったのか、中国陶磁器のみが運ばれていたのか、という問題もあろう。

居住地が交易ルートに沿う場合は、物資運搬中・や Khorfakkan の発掘で出土した 14 世紀から 16 世紀初の陶磁器と類似するものは、中国青磁２片を除き、イスラーム陶器については未だ採集されていない。この時期のルートがこの地域を通らなかったのか、中国陶磁器のみが運ばれていたのか、という問題もあろう。

居住地が交易ルートに沿う場合は、物資運搬中・動中の短期間の居住であったかもしれない。平坦地に水が溜まる冬の間、草を追ってヤギとラクダを季節的に移動する放牧民であったかもしれない。山裾から地下水を引いて農業ができる定住的な農村だったかもしれない。井戸で水を得ることができる数家族が単位で居住したような狭い範囲が居住範囲であったかもしれない。

アラビア湾のホルムズ島が Qeshm 島の飲料水で 16 ～ 17 世紀に支えられたように、飲料水の確保は生活にとって基盤的な要素であった (Daniel T. Potts, 2011, The Portuguese on Qeshm, Acta Iranica, 52:99-118.)。現在の Qeshm は雨量が減り、数世紀前と変化している。内陸の砂漠での居住は交通路と水の確保がさらに重要性をもつ。2011 年、アラブ首長国連邦は水道網の整備を進めるため、Fujairah-Al Ain を結ぶ水道パイプから Al Madam 地域に水を配給する工事を始めた。water supplies to Al Madam area in Sharjah from the main Fujairah-Al Ain water pipeline この地域の水道設備設置は他地域より遅れ、道路網の整備も同様にやや遅れた地域であるため、遺跡が残る可能性は高い。

West side of the modern road

南北に走る道路の西側を主な調査地域とする。UAE に属し､他の地域と比較すると開発が遅れているため、遺跡が残る可能性が高いためである。

平面径 40 mほどの砂丘が北西から南東に吹く風で鱗状に連なり、山脈側の南東から北西に流れるワディの跡も見える。Al Madam ラウンドアバウトから南側の砂漠に入り、24° 53′ N 55° 46′ E 付近の隣接する 6 地点で土器片等を採集した。赤みがかる砂丘の間の平地は黒みがかり、表面にかなり土器片が散らばっているが、そのうち僅かな数のみをサンプルとして持ち帰った。

Al Madam, point 1

砂丘横の平地は小砂利混じりの黒ずんだ表面で、イラン産水瓶や現地産の cooking pot、瓶が落ちている。

Al Madam, point 2

イラン産の刻線文のある瓶、現地産の cooking pot、瓶、注口付瓶が見られる。白釉青緑彩陶器、褐釉陶器、黄釉陶器、ガラス、貝も落ちている。

Al Madam, point 3

小石が集まる地点がある。ダチョウ卵殻、ガラスバングル、白釉青彩陶器碗、イラン産瓶、現地産の赤彩瓶、刻線文瓶、cooking pot。

Al Madam, point 4

中国青磁蓮弁文碗 14 世紀。黄釉褐彩スグラヒィアト碗 13 世紀。オマーン褐釉取手付瓶、褐釉鉢。イラン青釉緑彩黒彩陶器碗。現地産瓶、大瓶、cooking pot、ガラスバングル、貝、動物骨。

Al Madam, point 5

小石が集まる地点がある。青釉陶器碗。黄釉陶器碗。中国コーヒーカップ。イラン産刻線文瓶。現地産大瓶、cooking pot。ガラス、ガラスバングル、貝、石製鍋。

Al Madam, point 6

スグラヒィアト黄釉緑彩刻線文碗。黒釉陶器。青釉陶器。イラン産瓶。現地産大瓶、cooking pot。ガラスビーズ、バングル。サンゴ。ラクダ骨が散乱する。

East side of the modern road

以前の交通路は中心となる町に入る道であった。現在の Al Madam 町と以前の町もほぼ同じ範囲であったと思われる。現在の道路は一直線に町の郊外を通るため、以前の道とずれていることが推定される。

現在の南北に走る道路の東側も、以前は西側と同じ










Fig. 8　Point 5 of Al Madam and collected ceramics.

Fig. 9　Point 6 of Al Madam and collected ceramics.



Fig. 10　Surface collection from the east side of the road, south of Al Madam roundabout.

風景であったのだろう。一部は UAE に属しているが、大部分はオマーンに属する地域となっている。道路の西側でも遺物が採集できるため、遺跡の広がる地域と推定される。

一か所から採集した陶磁器片を示した。褐釉陶器碗の底部には補修孔が 1 つ空いている。黒釉陶器瓶、cooking pots も見られる。

Problems of the Research

最近整備された道路と点在する農地が、地形とくに砂丘の広がりを削減しているようである。Al Madam ラウンドアバウトから南に向かう道路の 1km ほど東側にアラブ首長国連邦とオマーンの国境線が南北に走り、そこで南東から北西に流れるワディが切れているのも見える。他の地域と比べると、現代の地形変化の影響が少ない地域であると思われるが、数百年、数千年前の地形とどの程度変化しているか、現状では不明瞭である。地形測量等が必要である。

地表面に見られる二千年紀の陶磁器からは、千年ほど地形の変化が少なかったとも思える。一千年紀の土器は確認されていないが、発見される可能性は高い。Al Madam ではスペイン、フランスの調査隊が鉄器時代の泥レンガ住居跡を発掘している。Mleiha は紀元前？世紀から紀元後 4 世紀頃の交易で栄えた拠点都市として知られ、砦、住居、墓が発掘され大量の出土品がある。ローマ、ギリシア、メソポタミア、ササンとの交易を示す出土品もある。そうした品がさらに内陸地域に運ばれたとすれば、Al Madam 付近を通ったことも推測できる。こうした痕跡を残す資料が地表面に見えるかどうか、踏査を継続する必要がある。

採集した僅かな陶磁器片を見ると、19 世紀から 20 世紀が多いようである。ガラスバングルなど日常の装飾品があり、日常生活用具の土器、水瓶、cooking pot が主である。これは生活をこの場で営んでいたことを伝える。さらに古い時代にも定住的な生活があったかどうかを調査する必要がある。定住的な生活に加えて、定住していない人々が交易ルートをいつ頃から移動していたか、それも調査が必要である。

Research Plan of the Project

今回の簡単な踏査で推測される諸課題を調査研究していくために、踏査範囲を広げることと同時に調査地

点の限定が必要であろう。グーグルアースを用いて調査範囲の地形を知り、GPS を用いて調査地点を地形図のなかに落とす。一部の地点では５ｘ５ｍの範囲で発掘し、すべての遺物を採集し、トレンチ断面図を描く。Abu Dhabi と Al Ain の間に広がる砂漠内には人々の生活の痕跡を示す遺跡がかなり多く発見された。その一地点でトレンチ発掘を実施したが、遺物は地表面のみに広がり、砂内にはまったく含まれていなかった。こうした例の評価をする資料を得ることも必要である。

広範囲の mapping により、道路やルートの存在を推測し、居住地の範囲とその特徴を明らかにする。砂漠の生活と、砂漠から生活用品が発見される背景を探る研究を継続する。

AL MADAM 2011

Settlement sites along the trade route in the desert, Sharjah Emirate

Tatsuo Sasaki, Hanae Sasaki, Eisa Abbas Hussien Yusef (Directory of Antiquities, Sharjah)

Al Madam Project

The recently known archaeological sites deep in the desert between Abu Dhabi and Al Ain are not on the famouse caravan routes. However, an ancient caravan route can be traced by connecting the archaeological sites dotting the desert. The route was not along or in line with the modern asphalt road. By collecting data from archaeological traces, we can locate the ancient route in the desert, which moved from time to time according to changing conditions. In 2011, we started a study of the Al Madam trade route by collecting surface materials from the desert.

Trade route between Mountain and desert

Al Madam is located on the north-south main road between Mleiha and Al Ain. Al Madam is also the intersection of the north-south and east-west roads connecting the desert with two seas, the Arabian Gulf and the Oman Gulf. The north-south road extends to the hinterland of Oman in the south.

Preliminary report of some collections

There are sand dunes 40 m long in this area. Archaeological materials lie scattered along the flat areas among the sand dunes. Traces of water make the surface of the flat areas hard and grey. There are no remains of mud brick houses on the surface. However, traces of hearths and accumulated small pebbles, which were probably heated for cooking, are often found.

Although there are some sherds of glass objects such as vessels, beads, and bangles, most were earthenware, such as cooking pots and water vaseses. There is some Iranian glazed ware, but the most common among glazed wares were the locally made brown and green glazed wares. Blue-and-white ware and green ware from China were very rare except for several sherds of Chinese Longquan green ware, Iranian sgrafiat ware, and Yemeni yellow glazed ware with black decoration. Many ceramic sherds, common finds along the Indian Ocean, could be dated from the 18th to the 20th century. Food residues (animal and fish bones) and shells were very rare on the surface.

East side of the modern road

Ceramic sherds were collected from both sides of the modern road, since it passed through the suburbs of Al Madam town.

Problems of the Research

The geographical scenery of the area is well preserved because the region is comparatively underdeveloped. Ceramic sherds from the Mleiha period are very rare even though Mleiha was an important trader centre in the period. Finds of Mleiha piriod are needed for the trade route research.

Research Plan of the Project

Archaeological sites will be marked on the map using GPS. One of the sites will be excavated to know the depth and extent of the settlement.

Mapping of archaeological materials will show the trade route and its characteristics. The study will be focused on desert life as well as materials of everyday use in the desert.